

## 第26回 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 学術集会を開催して

会 長 根尾 昌志 (整形外科学教室 教授)  
事務局長 藤原 憲太 (整形外科学教室 講師)

令和元年9月6日(金)と7日(土)の2日間にわたり、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)にて開催させていただきました。

一体どんな内容の学術集会であるのかとご疑問を持たれる先生もおられるかと存じます。本学会は名前の通り脊椎・脊髄の手術手技、テクニックに特化した学会です。「整形外科と脳神経外科の情報交換」「世界同時進行」「個人レベルでの学会参加」の3本を学会の柱としております。その中でも整形外科医と脳外科医が一堂に会し、お互いの知識・技術を学び合い、お互いの脊椎脊髄外科治療を高め合う「整形外科と脳神経外科の情報交換」が、この学会の最も大きな特徴であり存在意義です。

そのような学会のありようを踏まえて、今回の学会のテーマは、「ひらめき! 一技術を進める力一」といたしました。

主題としてTechnical Tips(診断・手術のコツ)、脊椎・脊髄外科の新技术、成人脊柱変形、脊椎・脊髄腫瘍、キアリ奇形と脊髄空洞症を取り上げました。

海外からも6名の講演者を招聘し、世界の最先端の情報を会員に提供いただきました。また連動するシンポジウムにも出来るだけご参加いただき世界のトレンドと日本の現状について活発な議論を戦わせていただきました。

この他にもSpine Leader's Lectureと称し

て、脊椎脊髄分野のトップランナーの18名の先生方に、それぞれの得意とする分野のご講演をいただきました。

またランチョンセミナー 5講演、Tea Timeセミナー 2講演と2日間の期間中にぎっしりと学びの機会を設けました。

今回の学会の特徴として、ポスター発表を廃し5会場口演のみでの開催といたしました。これは演者と聴衆の活発な意見交換の機会を出来るだけ増やし、かつ若い先生にも口演・ディスカッションのチャンスを得ていただくことの会長の思いから来ております。期待通りにいずれの会場でも熱気のある議論がなされておりました。

またハンズオンセミナーもこの規模の学会としては異例の6セッション企画いたしました。手術手技はもちろん、超音波での神経根描出という新しい画像診断の技術を参加された先生方に習得していただきました。

本学会では、今までにない480名を超えるご参加をいただきました。ご参加いただいた先生方には、これからの日常診療や手術にお役に立つことを見つけていただけたのではないかと存じます。

最後になりましたが、この度大阪医科大学医師会から多大なるご支援を賜り、盛会裡に学会を開催できましたことを心より感謝申し上げます。

